

これが、この場合の選択規準となる。

### 2.4 占拠率モデルの一般的な場合の選択規準

上では簡単な場合について選択規準を述べたが、考え方を延長すれば一般的な占拠率モデルの選択規準が得られる。価格差のように明らかに計量できるものに対しては、単位価格当りのエントロピー、計量できがたいパラメータ、たとえば宣伝効果などはその効果によって定まる銘柄の選択比率を市場調査などで調べることになると、この場合のエントロピーも定まってくる。したがってこれらのパラメータのウェイトを  $f_1, f_2, \dots$  ( $f_1 + f_2 + \dots = 1$ ) とすると、占拠率モデル(簡単のため2銘柄とする)は

$$H = - \sum_{i=1}^3 p_i \log p_i - p_3 \sum_j f_j \log f_j - p_3 \sum_j f_j \cdot H_j$$

となる。ここに  $H_j$  は第  $j$  番目のパラメータでの銘柄選択におけるエントロピーである。これらは調査や計算で明らかになる。まず、 $p_1, p_2, p_3$  を固定したままで

$f_1, f_2, \dots$  を動かして  $H$  を最大ならしめる値を求める。これは  $p_1, p_2, p_3$  に関係しない値である。次にこの求めた  $f_j$  をつかって制約条件

$$p_1 + p_3 \sum_j f_j \cdot u_j = m_1$$

$$p_2 + p_3 \sum_j f_j (1 - u_j) = m_2$$

を満足しながら  $H$  を最大ならしめるように  $p_1, p_2, p_3$  を求める。これが選択規準である。 $f_1, f_2, \dots$  は離散的であったが、ある場合には連続的な分布にする必要も事前情報からあるかもしれない。しかしこの程度であれば銘柄数が増加しても計算ができる。

### 文 献

- (1) 国沢清典：エントロピーモデル，日科技連出版社，1975.
- (2) Herniter, J. D. : An entropy model of brand purchase behavior, Journ. of Market Res., Vol. X, 1973, pp. 361-375.



## 研究部会報告

### ●イノベーション●

#### ・第5回

日 時：8月3日(土) 14:00~17:00

出席者：8名

場 所：中央区新富 ワーカーズ・サポートセンター

テーマ：「イノベーション(アイデア・デザイン・創造・更新)」

イノベーションには極めて高度の研究・技術・技能・知識などに依るものもありますが、その一方ごく平易な一寸したアイデアや思い付き等による簡単なものでありながら大変に効果や貢献の大きなものもあります。

この平易なイノベーションも大切に致しましょう。

#### ・第6回

日 時：9月7日(土) 14:00~17:00

出席者：11名

場 所：中央区新富 ワーカーズ・サポートセンター

テーマ：「イノベーション(創新のデザインと実現)」

イノベーションを行うには何か契機となるモノゴトとか、問題の主な要素とかシステムが手掛かりになります。モノゴトをチェックしたり評価する場合、「楽しく、豊かに、健やかに、美しく、仲良く、より良く、新しく、生き活きと」はキーワードに使えるそうです。

### 会 合 記 録

9月10日(火)	研究普及委員会	14名
9月11日(水)	機関誌編集委員会	15名
9月12日(木)	庶務幹事会	4名
9月13日(金)	40周年記念事業企画推進委員会	18名
9月19日(木)	理事会	16名

### 第3回理事会議題 (8-9-19)

1. 平成8年度第2回理事会議事録の件
2. 入退会承認の件
3. 平成8年度上半期収支決算報告の件
4. 第14回学生論文賞推薦の件
5. 平成8年度春季研究発表会収支決算報告の件
6. 平成8年度第1回ORセミナー終了及び収支決算報告の件
7. 第12回経営工学研連シンポジウム収支決算の件
8. 平成9年度春季研究発表会開催の件